

製品名 ABF#770プライマー

AGCコーテック株式会社

系統	アクリルウレタン樹脂系塗料				
特徴	1. 接着性能に優れています。 2. トルエン・キシレンを使用していない環境対応タイプです。 3. 無黄変タイプです。 4. 湿気硬化形一液の塗料であるので作業性が良好です。				
用途	既存ふっ素塗膜への塗替え用 コロニアル改修・押出成形板用プライマー				
荷姿	14	kg			
	4	kg			
色相	淡黄色透明				
組成 適用法令	成分	% (重量比)	主な適用法令		
	樹脂	21	消防法 危険物区分	第4類第 2 石油類 (非水溶性) 危険等級 III	
	溶剤	79			
計	100	労働安全 衛生法	有機則 第 (3 種有機溶剤)		
塗料性状	粘度	比重		加熱残分 (%)	
	—	0.87		21.0	
※ 塗料性状に記載している数値は代表値を示すものであり、若干の変動があります。					
取扱上の注意	別紙及びSDSを参照してください。				
塗装条件	雰囲気	温度5°C以上、湿度85%RH未満			
	希釈剤	—			
	塗装方法	刷毛、ローラー、エアレススプレー			
標準所要量 希釈量	塗装方法	所要量 (kg/m ²)			希釈率
		理論	塗着効率	標準	
	刷毛・ローラー	0.08	80% ~ 100%	0.08 ~ 0.10	無希釈
エアレススプレー		60% ~ 80%	0.10 ~ 0.14	無希釈	
※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。					

標準膜厚	希釈率	標準膜厚 (μm)	
		乾燥膜厚	WET膜厚
	—	20	95
乾燥時間		23°C	
塗装間隔	指触乾燥	1時間	
	半硬化乾燥	2時間	
	硬化乾燥	10時間	
	塗装間隔	16時間以上7日以内	

※ ポットライフと乾燥時間は目安です。無希釈、一定の温度条件の恒温槽にて測定したものです。

※ 乾燥時間の測定方法は、JIS K 5600-1-1 4.3.5 によります。

※ 本書類の内容は、予告なく変更する場合があります。

制定：2007年10月22日 改定：2022年1月1日

取扱い上の注意事項

1. 取扱い方法及び保管

- ・ 湿気硬化塗料なので開封後は使い切ってください。
- ・ 湿気硬化塗料なので水と反応します、作業中は水分に注意して下さい。
- ・ 十分に攪拌してからご使用ください。
- ・ 被塗面の油脂、塵埃、水分などの付着物は除去してください。
- ・ 火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・ 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ・ 塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
- ・ 取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、更に頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ・ 容器からこぼれた場合には、ウエスで拭きとって、水をはった容器に保管して下さい。
- ・ 塗料あるいは溶剤等の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまでは、必ず水に漬けておいて下さい。
- ・ 取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- ・ 缶上部の取っ手は手下げ専用です。ロープやフック等を取っ手に取り付けてつり下げないで下さい。
- ・ 貯蔵中は容器を密閉し、直射日光や雨のあたらない、換気の良い一定の場所を定めて保管して下さい。
- ・ 部外者の出入りできないところで、かつ子供の手の届かないところに保管して下さい。

2. 救急処置

- ・ 皮膚や着衣に付着した場合は、水やせっけんで十分に洗い落とし、皮膚に痛みや外観の変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。
- ・ 目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ・ 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ・ 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けて下さい。

3. 火災時の処置

- ・ 万一、火災が発生した場合には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。

4. 廃棄

- ・ 廃材、材料の付着したウエス等は安全な方法で保管し、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ・ 容器は中身を使い切ってから、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

5. 誤使用

- ・ 本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
- ・ 指定された以外の材料と混合しないで下さい。

6. 詳細情報

- ・ 詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

7. 低温時に塗装する際の注意事項

想定される状態			発生する不具合	対策、注意点
下塗が未硬化の場合			<ul style="list-style-type: none"> ・ 下塗り成分が移行(ブリード) ・ ちぢみ(旧塗膜がある場合) ・ 上塗り塗膜との融合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下塗り塗膜が硬化状態にあることを確認する。 ・ 下塗り塗膜に外観異常がないか確認する。
硬化速度の低下			<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装後の結露や降雨による影響を受ける時間が長くなってしまふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。
水分の混入	塗装前	結露	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗膜の膨れ、発泡、軟化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装前に被塗面の状態を確認する。
	塗装後	結露降雨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗膜の膨れ、発泡、雨跡の形成、艶の低下、白化など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。